

森林創生と再生をめざす 植林事業



清洲 忠洋 (きよす ただひろ)
伊藤忠商事株式会社 紙パルプ部チーフ課長

1960年代後半より始まった、日本の製紙会社各社によるウッドチップの輸入は、1989年には輸入依存度が50%を超える状況下、メイン・ソースであった米国西海岸や豪州での環境問題による伐採規制が厳しくなったため、環境への負荷の少ない植林資源の自前確保の動きが製紙業界内で活発となってきた。一方、それ以前よりチップ生産・輸出事業に出資・参加していた当社は、それらの設備・インフラをベースにして、その周辺に資源を確保する植林事業の開発を開始し、顧客である製紙業界内の動きと相まって、事業化が実現していった。

当社の植林事業は、対象地域に経済効果を与えるだけでなく、基本的に牧草地や荒地に植林をし、森林創生と再生をめざすもので、間接的に天然林保護に寄与するだけでなく、塩害発生地などの土壌改良、CO₂の固定等、環境面での貢献が非常に注目されている事業でもある。したがって、製紙会社以外にも、事業の理念、特に環境に優しい事業であるという点にご賛同いただき、CSR活動の一環として出資参加いただいている企業もあり、当社としてもさらに植林事業の拡大を図っていきたいと考えている。



西豪州ユーカリ植林地

また、当社のウッドチップを含めた木材製品取引においては、持続可能な森林経営が行われている資源からの材を取り扱うことを全社基本方針としている。その証左となる森林認証についても当社は積極的に取り組んでおり、下記のとおり植林会社における認証取得はもちろんのこと、2001年7月には商社で初めてFSC (Forest Stewardship Council：森林管理協議会)のCOC(Chain of Custody)認証を取得し、森林認証の普及に努め、サプライヤーとともにトレーサビリティの確保・精度向上にも努めている。

伊藤忠商事出資事業における海外植林実績

| 事業名略称 | 国 | 主要パートナー | 設立年度 | 目標面積 (ha) | 植林実績 (ha) | 森林認証 |
|---------|----------|---------|------|-----------|-----------|------------|
| SEFE | 豪州 | 日本製紙 | 1967 | 5,000 | 3,500 | PEFC (AFS) |
| CENIBRA | ブラジル | 王子製紙 | 1973 | 200,000 | 125,000 | FSC |
| ANCHILE | チリ | 大王製紙 | 1989 | 30,000 | 26,000 | FSC |
| SPFL | ニュージーランド | 王子製紙 | 1992 | 10,000 | 10,000 | FSC |
| APFL | 豪州 | 王子製紙 | 1993 | 26,000 | 23,000 | FSC |
| AAA | ベトナム | 中越パルプ | 2005 | 2,000 | 1,600 | N/A |
| 合計 | — | — | — | 273,000 | 189,100 | — |